

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 4月28日

【評価実施概要】

事業所番号	3070101765
法人名	社会福祉法人 喜成会
事業所名	グループホーム 喜成会
所在地	和歌山県和歌山市北野128番地 (電話) 073-462-3033

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成21年4月15日	評価確定日	平成21年5月13日

【情報提供票より】(平成21年 3月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 10月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	8 人	常勤 8人, 非常勤 0 人, 常勤換算 7.5人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	5 階建ての 5 階 ~ 5 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷 金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(3月 1日現在)

利用者人数	8 名	男性	0 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	0 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.7 歳	最低	70 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	向井病院 紀伊クリニック 小谷歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

和歌山市内で特別養護老人ホームをはじめ様々な施設を運営し、地域に根ざしたサービスを目指している社会福祉法人喜成会を母体に持ち、家庭的な雰囲気の中で利用者の暮らしを支えている開設9年目を迎えたグループホームです。福祉の複合施設である高齢者総合ケアセンターみらいの5階に位置し、広く明るいホーム内は、利用者が安心して居心地良く過ごすために、職員が様々な工夫をしています。また、職員と利用者が共に支え合いながら利用者主体の支援を心がけ、その人らしく安らぎのある生活を支援しています。管理者はリーダーシップを発揮すると共に、職員の自主性も大切にし、更に居心地の良いホームを目指して様々なことに取り組んでいます。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では、利用者主体の支援について考える機会になり、現在も続けて利用者主体を意識して何事にも取り組んでいます。また、地域との交流に取り組んだり、畑作りなどに力を入れるなど、積極的に取り組んでいます。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は、職員全員に自己評価票を配り記入してもらい、会議で意見の分かれた部分を話し合いで意思統一を図り、仕上げられました。前回から引き続き、利用者が主体の支援になっているかにポイントを置き、今後の取り組みも考えられました。
重点項目 ②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 家族会会長、副会長、地域包括支援センター長、自治会会長、民生委員、地区人権委員会会長、紀伊支所所長をメンバーとし、2ヶ月に1回開催しています。ホームの近況や行事の様子をスライドで出席者に見てもらいながら報告をし、地域に向けて認知症について知ってもらったり、ホームのサービス等について話し合い有意義な会になっています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 面会時のコミュニケーションで家族の意向や意見を聞くことを心がけると共に、年に2回家族会を開催しています。ホームに対する意見を聞くことは少なく、今以上に意見を言いやすくなるよう働きかけていきたいと考えられています。
重点項目 ③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入し、ホームの季刊誌を回覧板に入れてもらったり回覧板から地域の情報を得るなどのつきあいがあります。地域の盆踊り等の行事に参加したり、地域の住人が参加する法人の行事などを通じて交流に努めています。今後も少しずつ地域との交流を深めていきたいと考えられています。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念として、「泣いて笑ってつれもていこら」を掲げています。利用者の暮らしを考え、方言を取り入れたり、地域と共にとという意味も込められ、職員全員で話し合い、地域密着型の理念が作りあげられました。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	リビングの良く見える位置に利用者が毛筆で書かれた理念を掲示しています。また、会議や日々のケアの中で振り返る機会を持ち、常に個々の利用者の思いをくみ取り、同じ思いを持てるよう心がけています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、ホームの季刊誌を回覧板に入れてもらったり、回覧板から地域の情報を得るなどのつきあがあります。地域の盆踊り等の行事に参加したり、地域の住人が参加する法人の行事などを通じて交流に努めています。今後もホームとしての地域活動にも力を入れたいと考えています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、職員全員に自己評価票を配り記入してもらい、会議で意見の分かれた部分を話し合い仕上げられました。前回の評価では、利用者主体の支援について考える機会になり、現在も続けて利用者主体を意識して何事にも取り組んでいます。また、地域との交流に取り組んだり、畑作りなどに力を入れるなど、積極的に取り組んでいます。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会会長、副会長、地域包括支援センター長、自治会会長、民生委員、地区人権委員会会長、紀伊支所所長をメンバーとし、2ヶ月に1回開催しています。ホームの近況や行事の様子をスライドで出席者に見てもらいながら報告をし、地域に向けて認知症について知ってもらったり、ホームのサービス等について話し合い有意義な会になっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	和歌山市の介護保険課とは、手続きや報告の際にホームから出向いています。和歌山県の長寿社会課との認知症関連の事業で連携をとり、ホームの運営等に活かされています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に直接コミュニケーションをとり、日々の様子を伝えることに努めています。また、法人の季刊誌の発行や毎月個々の利用者の写真を載せた手紙である「つれもて日記」を郵送し、日々の表情もわかりやすく伝えています。預かり金は出納帳をつけ、家族の面会時に確認してサインをもらい、領収書を渡しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時のコミュニケーションで家族の意向や意見を聞くことを心がけると共に、年に2回家族会を開催しています。ホームに対する意見を聞くことは少なく、今以上に意見を言いやすくなるよう働きかけていきたいと考えています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームの管理者が法人のスーパーバイザーを兼務しています。不定期に面接をしたり、法人の福利厚生等で職場環境を整えています。昨年度は退職者はおらず、馴染みの職員での支援ができています。また、職員の交代のある場合は新しい職員と異動する職員が1ヶ月程勤務が重なるようにし、利用者への影響が少ないように配慮しています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として年間の研修計画を新人と現任に分けて立てられており、ホームの職員も参加しています。研修を受けた職員がホーム会議の場で伝達するだけでなく、内容を議論しホームでどのように活かしていくかを話し合っています。外部研修にもできるだけ参加できるようにシフトの調整や出勤扱いで行けるように支援しています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は県のグループホーム連絡会の会長であり、他のホームとの交流を積極的に行っています。情報交換や医療知識についての研修、管理者研修、相互実習などサービスに活かしていけるような取り組みを積極的に行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にホームの雰囲気に馴染みやすいように、見学や日中の体験等を受け入れています。また、入居前の生活について家族から聞いたり、以前に利用していた事業所から情報を得て、入居後に過ごしやすくなるよう環境等の工夫をしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	理念の中にも共に泣き笑いながら暮らしていくという思いを込められて作られており、昔ながらの料理や洗濯物の干し方など日々の生活を通して教えてもらうことも多く、一緒に楽しみながら暮らせるよう支援をしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の一部をアセスメントとして利用し、利用者のできることやわかること、好むもの、希望等を詳細にまとめ、カンファレンスで本人の意向を汲み取れるよう話し合っています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ホームの計画作成担当者や介護職員が参加し、サービス担当者会議を開き、介護計画を作成しています。家族の意見や意向を少しずつ具体的に聞き取れるようにコミュニケーションのとり方を工夫し、介護計画に反映していきたいと考えています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間は3ヶ月毎の定期的に見直しを行ない、状況の変化のあったときにはその都度の見直しを行っています。日々の記録にケアプランの実施状況や気づきを記入し、日々の変化に対応できるように取り組んでいます。また、職員が毎月のモニタリングを行っていきたくており、更に現状に合った見直しにつなげたいと考えています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が行けない時の病院の同行や行きつけの美容院の送迎など、家族の状況や希望に添ってホームで対応できる支援を行っています。また、毎月弘法大師のお参りに行ったり、旬の物を食べに行くなど希望に応じた外出の支援をしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を継続し、病院同行や家族と情報共有しながら適切に医療を受けられるよう支援しています。また、個々の利用者に応じて眼科や歯科などの必要な診療が受けられるようにも支援しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族や本人の意向を聞き、医療行為などホームでできないことがない限りは、できるだけ希望に添った支援をしていきたいと考えており、入居時等に家族に話しています。重度化に対するホームとしての指針は書面化したものではなく、今後作成したいと考えています。	○	重度化や終末期に向けた方針をホームとしての考え方やできることを文書化したり、その時々状況や思いを再確認したことも含めて同意をもらえるような取り組みになることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	研修の際には、指示的な言葉でプライドを傷つけていないか、プライバシーを損ねるような言葉遣いになってしまった時に気づくことができるように自己を振り返るよう指導をしています。	○	個人のファイルは事務所の扉や鍵の付いていない本棚に保管しています。表から見えないような工夫や扉の付いた書庫等の個人情報の保管場所を検討されることを期待します。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝の時間を決めてしまわずに、個々の利用者の希望や行いたいことに添って生活できるように支援しています。その日の勤務している職員の人数や利用者のADL状況に関わらず、今以上に利用者のペースが守れるように努力していきたいと考えています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から後片付けまで、利用者と一緒にこなっています。食事時は利用者と職員が1つのテーブルを囲み、会話を楽しみながら支援しています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、9時から19時の間で入浴できるように準備しています。職員間で連携や調整をし、個々の希望を聞き、そのタイミングで入浴できるように取り組んでいます。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活の中で、食事作りや洗濯物たたみなどの家事、新聞を取りに行くこと等に役割を感じてもらったり、趣味を活かして植物や畑の水遣りや手芸などを楽しめるように支援しています。手芸で作った作品を展示会に出展し、利用者と見に行ったりし、やりがいに繋がっています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣に散歩に行ったり、買い物に行くなど日常に外出できるように支援しています。その日の希望で昼食を外食にしたり、ドライブに出かけることもあります。また、回覧板と一緒に持って近隣の家に行ったり、畑やごみ捨てなど少しでも戸外に出る機会を作っています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の5階であり、エレベーターがホームの出入り口となっていますが、エレベーターのロックは日中開錠してあります。利用者が出かけたい言動にも注意を払い、外に行きたい時に外出できるように支援をしています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年1回は消防署に来てもらい、昼夜を想定した避難訓練や消化訓練を行い、自主訓練を年に1回行っています。当該ホームは5階建ての複合施設の5階に位置し、ホーム単独での災害訓練は困難であり、また地域の協力も得にくい環境です。今後、地域への働きかけを徐々に行っていく予定です。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を考えるときにバランスの良い食事を心がけています。利用者の咀嚼や嚥下状態に合わせて、とろみや刻み食等の対応をし、利用者全員の食事量や水分量をチェックし記録に残しています。また、献立を法人の管理栄養士に見てもらい、アドバイスを受け、献立の見直しを行っています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく広い共用空間には、多くの観葉植物を置き、テレビを見るためのソファや洗濯物をたたみやすいように畳のスペース、少人数で寛ぐことができる空間を作り、家庭的で居心地良く過ごせるよう様々に工夫しています。また、パーテーションを利用して玄関らしく仕切ったり、リビングからトイレの出入りが見えないような配慮をしています。更に、立ち上がりが困難になった利用者のために、立ち上がりやすくなるようソファの高さを高くするなどの工夫もしています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に使い慣れた家具等を持ってきてもらうように依頼し、たんすやベッド、テレビ、椅子等が持ち込まれ、観葉植物や手芸の作品などを飾りその人らしい居室作りをしています。居室で過ごす利用者が少なく、今以上に居心地良く過ごせるような工夫をしていきたいと考えています。		